

## インターフェースを考える <その2>

### 普及員～農民と研究者をつなぐ

このシリーズでは『つなぐ』ことを一つの重要なキーワードとして、インターフェースについて考えようとしているが、農民と研究者をつなぐ『インターフェース』として、普及員の重要性は言うまでもない。我々もさまざまな普及プロジェクトにおける経験をもとに、これまでも機会をとらえていろいろな事例を AAINews で紹介してきた。繰り返しになる部分もあるが、本シリーズの観点から論点を整理しながらまとめてみたい。

### 現場農家と研究者との「距離」を縮める努力

情報や技術をスムーズに伝達するためには、そのための組織的・人的なルートが確立していることが必要である。往々にして途上国でも、そうしたルートやしくみは「見かけ上は」存在していることが多い。しかし『仏作って魂入れず』のような状態で、それが機能していないことが問題である。我々がプロジェクト実施を通して学んだことは、そのためには人的なつながりを密にすることが必要であり、普及員と研究者が一緒にいる場や機会、あるいは時間を増やすことが効果的であった。お互いに「知り合いになる」ことで、既存の組織やしくみに血が通って、有機的に動き出すと考えられる。



普及員と研究員～圧力計の使い方を指導

### コミュニケーション・スキルの必要性

『コミュニケーション』も本シリーズの重要なキーワードであるが、プロジェクトを実施している際、相手側機関や C/P からもっと普及員のコミュニケーション・スキルを改善してほしいという要望も多い。研修等を通してスキルアップできる能力もあれば、現場での経験を通して身に付けていくものも多々ある。「経験を積む」という点でプロジェクトのできることは、やはり普及活動の「場」や「機会」の提供である。そうした支援に

よって、半ば自律的にコミュニケーション・スキル上達を図る、というのが我々プロジェクト側の意図であった。一方、「聞き方のテクニック」等は普及員がスキルとして身に付けておくべきものであり、技術研修によって補強していく必要がある。



普及員と農村女性～家計情報の調査

### 信頼と自信につながる機材の活用

効果的な普及活動のために、コミュニケーション・スキルと並んで必要なのは、普及員が圃場で使える機材である。例えば、灌漑の運転圧力や灌漑水の塩分濃度等について、普及員による簡易な機材を使った測定が可能になると、数値化した結果に基づいて農家に対する的確な忠告が出来るようになる。こうなると、農家の普及員に対する信頼度が増すと同時に普及員の自信にもつながる。

### スーパー普及員は育てられるか？

ところで、プロジェクトを実施していると、スーパー普及員やスーパー・カウンターパートに出会うことがあり、彼らの存在や活躍がプロジェクトの成否に大きく影響する、ということがえてしてある。研修の実施や経験を積ませることで、普通の普及員を「スーパー普及員」に育てることはできるのか？ どうすれば、そうなれるか？ というのはいまだに大きな課題である。

### 普及員の役割の変化

試験研究と現場ニーズとの乖離が指摘されてから久しいが、その背景は第1回でもすでに述べた。これらに加えて、普及ニーズの多様化や高度化が普及活動をさらに難しいものにしていく。たとえば、単なる技術普及だけでなく、「儲かる農業」をめざしたマーケティング重視や、売りの組織化や体制作り等のコーディネーター的役割も重要になってきている。『インターフェース』としての普及員を考える場合、こうした普及員の役割の変化にも注目していく必要がある。